

令和5年度 授業計画

ビジネス情報科・ビジネス科 1年A・B・C・D組

| | | | |
|-------|-----------|------|--|
| 教科名 | 公民 | 科目名 | 公共(2単位) |
| 使用教科書 | 公共 (実教出版) | 副教材等 | 公共演習ノート新課程版(実教出版) 2023 ズームアップ公共資料(実教出版) |

1 科目のねらい(目標)

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目・授業の内容と進め方

教科書を中心に、資料集で用語・事象についての解説をしながら授業を展開します。授業内容に応じてタイムリーに時事的な事象を取り上げ、どのような課題があるのかをクラス全体で考察します。

定期考査の際にワーク提出を行います。授業で学んだことを個別学習でワークに取り組み、学習内容の定着を図ります。定期考査では、用語などの丸暗記にならないように考慮し、図やグラフなどから考察できるように問題を出題します。長期休暇中にワークブックの課題に取り組み、主体的に取り組めたかどうかを評価します。

3 学習の方法

- ・授業を大切に、授業の中で理解し吸収できるように集中して聞き、メモを取りましょう。
- ・新聞を常に注意しながら読み、テレビなどからの情報に耳を傾けましょう。
- ・普段から新聞等に注意をして記事などを切り抜き残しておくようにしましょう。

4 課題・補習について

- ・定期考査ごとにワーク提出があり、1年間でワークを完成させます。
- ・定期考査後、理解度が低い場合は追試などの補習を行います。

5 観点別学習状況の評価のポイント

| 知識・技能(技術) | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解していると同時に、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。 | 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |

ビジネス情報科・ビジネス科 1年A・B・C・D組

| | | | |
|-----|----|-----|---------|
| 教科名 | 公民 | 科目名 | 公共（2単位） |
|-----|----|-----|---------|

6年間の学習計画

| 月 | 単元名 | 学習する内容 | 評価方法（課題等） |
|----------|--|--|--|
| 4 | 第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 1 青年期とは 2 自己形成の課題1 3 自己形成の課題2 4 職業生活と社会参加 5 伝統・文化と私たち | 青年期の出現 自我のめざめと第二の誕生 悩みと向き合っ て パーソナリティの形成 青年期の発達課題 社会の多様性と共通性 現代社会と青年 職業の意義と職業選択 社会参加とボランティア参加 日本人と自然 日本人が重視してきた倫理観 | ・行動観察 |
| | 第2章 人間としてよく生きる 1 古代ギリシアの人間観 2 科学と人間 3 自由の実現 4 社会を作る人間 | ソクラテス プラトン アリストテレス 帰納法と演繹法 人間の幸福と科学 カント ヘーゲル サルトル ハーバーマス アーレント | ・プリントチェック (知・技、思・判) |
| | 第3章 他者とともに生きる 1 人間と幸福 2 公正な社会をめざして | 功利主義 ロールズ セン | |
| 5 | 第4章 民主社会の倫理 1 人間の尊厳と平等 2 自由・権利と責任・義務 | 人間の平等と個人の尊重 差別と偏見の克服 国家と自由権 世代間の正義 | |
| | 第5章 民主国家における基本原理 1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 民主政治のしくみと課題 4 世界の主な政治制度 | 国家・政治・公共 民主政治の誕生 基本的人権の確立 自由権から社会権へ 法の支配と立憲主義 国民民主権 議会制民主主義 多数者の支配と少数者の権利 権力分立 イギリス・アメリカ・中国の政治制度 | 前期中間考査 ・考査で評価 ・ワーク提出 (知・技、思・判) |
| 7 8 | 第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 1 日本国憲法の成立 2 日本国憲法の基本的性格 3 自由に生きる権利 4 平等に生きる権利 5 社会権と参政権・請求権 6 新しい人権 7 人権の広がり と公共の福祉 8 平和主義とわが国の安全 9 こんにちの防衛問題 | 明治憲法下の政治 憲法の最高法規性 憲法改正 自由権の保障 精神の自由 人身の自由 経済活動の自由 平等権の保障 社会の中の様々な差別 生存権 教育を受ける権利 労働基本権 参政権・請求権 環境権 知る権利 プライバシーの権利 自己決定権 ・社会生活と人権 憲法9条 日米安保体制 自衛隊の海外派遣 有事法制 | ・行動観察 ・プリントチェック (知・技、思・判) ・ワークブックチェック (主体的) |
| | 第2章 日本の政治機構と政治参加 1 政治機構と国会 2 行政権と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治 6 選挙制度 7 世論と政治参加 | 国会の地位と役割 国会の構成と権限 国会の運営 議院内閣制 官僚政治 行政改革 憲法の番人 国民と司法 地方公共団体の組織と権限 地方自治の課題 住民自治と住民の権利 政党政治の課題 日本の選挙制度の課題 政治的無関心と無党派層の拡大 市民運動の広がり | 前期期末考査 ・考査で評価 ・ワーク提出 (知・技、思・判) |
| 10 11 | 2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1 経済主体と経済活動の意義 2 経済社会の変容 3 市場のしくみ 4 市場の失敗 5 現代の企業 6 国民所得 7 経済成長と国民の福祉 8 金融の役割 9 日本銀行の役割 10 財政の役割と租税 11 日本の財政の課題 | 経済循環 経済活動の意義 資本主義経済の成立と変容 社会主義経済の形成と変容 グローバリゼーションの進展 市場の働き 独占と寡占 情報の非対称性 外部性 公共財の供給 企業の種類 株式会社 企業の変容 企業の社会的責任 GDP GNI 景気変動 フローとストック 銀行と信用創造 証券会社と保険会社 間接金融と直接金融 金融の自由化と国際化 中央銀行の働き 歳入と歳出 租税の種類 税制改革 財政危機と財政格改革 | ・行動観察 ・プリントチェック 後期中間考査 ・考査により評価 ・ワーク提出 (知・技、思・判) |
| 12 | 第2章 日本経済の特質と国民生活 1 戦後日本経済の成長と課題 2 転機に立つ日本経済 3 経済社会の変化と中小企業 4 農業と食料問題 5 消費者問題 6 公害の防止と環境保全 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちの労働問題 9 社会保障の役割 10 社会保障制度の課題 | 高度経済成長 バブル経済 長期不況 人口減少 格差問題 中小企業の現状 新しいビジネスモデル 日本農業の現状 食糧安全保障 これからの農業 消費者問題 消費者行政 契約の権利と責任 公害防止から環境保全へ 循環型社会の形成 労働基本権の確立 労働三法 日本的雇用形態 雇用の流動化 日本の社会保障制度 福祉社会 | ・行動観察 ・プリントチェック (知・技、思・判) |
| | 3 国際社会と人権の課題 第1章 国際政治の動向と課題 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際協力 3 こんにちの国際政治 4 人権・民族問題 5 軍拡競争から軍縮へ 6 国際平和と日本の役割 | 国際政治の成立と変化 国際法の発達と変化 国連と集団安全保障 国際組織の協力ネットワーク 冷戦の終結 地域大国の台頭と多極化する世界 人権問題の展開 民族問題と難民 恐怖の均衡 軍縮の現状と課題 戦後日本外交の原則 アジア諸国への責任と協力 | ・ワークブックチェック(主体的) |
| 2 3 | 第2章 国際経済の動向と課題 1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 地域的経済統合の進展 5 国際経済のつながりと課題 6 発展途上国の諸課題と日本の役割 | 自由貿易と保護貿易 国際収支 外国為替市場と為替レート IMF・GATT体制 固定為替相場制から変動為替相場制へ WTO 経済統合の働き FTA/EP A 経済金融のグローバル化 南北問題 新国際経済秩序樹立への動き 南南問題 | 学年末末考査 ・考査により評価 ・ワーク提出 (知・技、思・判) |
| | 第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 持続可能な社会をめざして ・情報の収集 ・小論文の書き方 ・プレゼンテーションをしてみよう ・ディベートをしてみよう | | |